

グリーン・トピックス

北海道立林業試験場

30

組織培養によるトカチスグリの増殖

自然の豊かな北海道においても、開発や乱獲、盗掘などの理由により野生植物のなかには絶滅が危惧されているものがあります。現在、絶滅に瀕している希少植物の多くは未利用植物であり、また利用価値も明らかにされていません。しかしバイオテクノロジーの進歩に伴い、植物の利用価値が「植物自体」から「遺伝子」の範囲まで広がった現在において、品種の作出や医薬品の開発などの素材としても期待されるようになりました。

林業試験場では、レッドデータブック（環境省）において準絶滅危惧種（生息条件の変化によっては「絶滅危惧」になる種）に分類されている十勝に自生するトカチスグリ（写真）の組織培養による増殖方法を開発しました。トカチスグリは「十勝」の名前を冠した北海道産のベリー（小果実）として、菓子食材などへの活用が期待されています。

（道北支場）



林床に育つトカチスグリ



7月に赤く熟す果実



組織培養で不定芽の増殖



増殖した不定芽を発根させたトカチスグリ